

今回のサービスラーニング活動を通して感じたこと

社会福祉学部社会福祉学科2年 渡邊 勇貴

活動先：NPO 法人 ゆいの会

クラス：松下 典子 クラス

私は活動をしている時や活動を振り返っている時、大きく四つのテーマを感じていた。それは、①「自分が住んでいる地域の活動に目を向けて」、②「作品を通しての地域参加」、③「幅広い世代へのアプローチ」、④「広報力」というものである。これら四つのテーマを私が感じたこと・考えたことに照らし合わせながらまとめていきたいと思う。

一つ目に、「自分が住んでいる地域の活動に目を向けて」

今回、私がサービスラーニングの活動先に選ばせていただいたのは、自分が住んでいる地域で活動を行っている「ゆいの会」である。こちらの活動先を選んだ理由としては、元々、地元で活動している NPO ということで気になっていたものの、何をしているのかがいまいちわからない、建物を見ていても少し入りづらい雰囲気があり、気になるという程度でとどまっていたので、今回の活動を良い機会として活動させていただいた。活動をしていて感じたのは、住んでいる地域で活動をしている NPO を内部から見させていただくことで、住んでいる地域の良さを改めて実感できた反面、自分が地域で活動をしていく立場になった時には、こういう風にやってみたいと思うなど、今ある現状を含めながら、未来に向けての視点を持つことができたと感じた。正直なところ、地元での活動をしていなければ、自分の住んでいる地域に対して積極的に意見を持つことはなかったかも知れない。大学での研究についても自分の中に新しいテーマを見出させていただく良い経験になったと思う。

二つ目に、「作品を通しての地域参加」

「ゆいの会」では、さをり織りや陶芸など作品づくりから自らを表現する場となっていると感じた。一人ひとりが思い思いの作品を作り、自分へのプレゼントや家族へのプレゼントにするなどしている。これで終わってしまえば、ただの趣味の範囲で終わってしまう、しかしゆいの会では大きなイベントに向けて出展するための協同の作品作りへとレベルを上げている方も何人かいた。個人で考えれば、個人の作品に対する思いや向上心が増していき、良い作品づくりにつながる。これを地域単位の大きな視点で考えると、「作品」は地域の文化活動となり「商品」として名を変えると感じた。商品となった作品は、誰かの心に留まり、そこにお金の循環が生まれ、地域貢献、地域活性化につながっていくと感じた。地域参加は社会貢献となっていると思うし、積極的な作品への意識が地域を良い方向へと導く地域づくりとなり得ると思っている。

三つめは、「幅広い世代へのアプローチ」

私が、活動していたところだけでなく他の活動先のまとめを聞かせてもらったときに、どこの活動先でも幅広い視野を持って、さまざまな年代へのアプローチをしているというのを感じた。たとえば、高齢者向けにサロンを開いているところで日にちが変われば、子

どもたちの放課後支援を行っていたりもするということである。地域に目を向けて、地域のニーズに合わせて活動を考えた時に必要なものだと感じた。今後このような身近で細やかな支援形態となれる NPO の存在というのは大きくなっていくであろうし、高齢社会に入った日本に必要な考え・働きかけだと感じた。もちろん、高齢者だけに対するものではなく、地域のニーズにマッチさせていくなれば、今後絶対的に増えていく分野となっていくだろう。世代だけでなく分野で考えていくと、私が興味のある障害分野に対しても考えていきたい問題である。私が生活していて、安全だと思ふことでも障害を持っている人にしてみると危険だと感じるどころ、事はたくさんあると思う。地域のニーズを考えると、高齢者や子どもに視点が行きがちで障害児・者に対してのニーズに応えるのが少ないというイメージがあるので、このような幅広い視野を持ってアプローチを考えていくことができればと感じた。

四つ目は、「広報力」

これは、活動をして最も感じたものである。先ほどと似たようなことになってくるが、地域にとってなじみの少ない NPO が多いというのを活動、報告会を通して感じていた。数年前に比べれば、NPO という言葉も浸透してきているし、NPO がどのような活動形態なのかを認知されてきているとは思ふものの、地域の人々が一つ一つの NPO を取り上げた時にどのような活動をしているのかというのは知られていないのが現状だろう。なので、いかに地域の人々に NPO を広めていけるのか、ということや地域ニーズとマッチした活動目的・活動理念を掲げ、人々に伝えていけるのかが重要になっていくだろう。地域に向けたイベントの開催や、逆に地域で開催されているイベントに対して、アプローチしていくことでイベントが自分たちの NPO を地域の人々に広めていく、良い媒体となるかも知れない。このままでは、NPO を広めるのは難しいかもしれないが、お祭りなどのイベントに参加することで、地域の人々にとってもわかりやすく活動の内容を示せる場になると感じた。

最後に、活動全体を通して、他の活動先に比べて私たちが企画・計画していくものが全く出来ていなかったというのを感じていた。サービスマーケティングというのは実習に比べても学生の積極性が試される場にもなっていると思うので、今回のサービスマーケティングは活動というよりも体験という印象が強かった。来年サービスマーケティングに行く学生には積極的に自分たちから企画・計画をしていってもらいたいと思う。私は、活動を終えても、活動先の方たちと関わりを持つことが出来たので、こういう出会いをこれからも増やしていきたいと感じた。自分の趣味や好きなことなど、なにかでつながりが出来ると思うし、自分が楽しいと感じていれば活動先の方々にも良い印象を与えられると思う。どんどん自分をアピールして行って活動を行って行ってもらいたい。

活動報告会で司会をやって感じたことは、準備時間が少なすぎて全体を通してのリハーサルも出来なかった。マイクなど設備の問題があるように感じた。サービスマーケティングのまとめも全体の報告会のまとめも、限られた時間でまとめるには、時間が必要ということ、事前の準備が必要と感じた。来年は準備をもっと早い段階からはじめてよりよい報告会に

なるといいと思う。